

平成27年度第2回越谷市総合教育会議

日 時 平成27年11月16日(月)

9:30～10:50

会 場 越谷市役所第三庁舎5階 第5・6会議室

次 第

1 開 会

2 協議事項

(1) 第2期越谷市教育振興基本計画について

(2) その他

3 閉 会

出 席 者

市 長 高 橋 努

教育委員会

委員長 住 田 俊

委員長職務代理者 堀 川 智 子

委員 進 藤 秀 子

委員 荒 木 明 子

教育長 吉 田 茂

欠 席 者 な し

会議に出席した者の職氏名

【教育総務部】

教育総務部長 横 川 清

教育総務課長 山 梨 一 弘

教育総務課副課長 中 村 則 行

【学校教育部】

学校教育部長 野 口 久 男

【市長公室長】

秘書課長 浅 見 修一郎

秘書課副課長 小 宮 崇

○高橋市長 おはようございます。これより第2回総合教育会議を開催いたします。

本年4月より設置された総合教育会議ですが、市と教育委員会との間で十分に協議・調整を行ってまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いを申し上げます。座って進行させていただきます。

それでは、協議事項(1)第2期越谷市教育振興基本計画について、事務局より説明願います。計画の位置づけ、これまでの経過については、事務局から説明し、計画の主な内容については、教育委員会から説明をお願いします。

それでは、まず事務局から説明願います。

○事務局 第2期越谷市教育振興基本計画についてご説明申し上げます。

はじめに、本計画の位置づけやこれまでの経過などについてご説明いたします。本年4月から施行された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」におきまして、市長は、「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」を定めるものとされました。これを受け、4月10日に開催された第1回総合教育会議において、「教育に関する大綱」についてご協議いただいた上で、法律の趣旨にのっとり、越谷市では「教育振興基本計画」をもって「教育に関する大綱」とすることを決定していただきました。したがって、現在策定中の「第2期越谷市教育振興基本計画」につきましても、同じく今年度策定中でございますが、市の最上位計画である「第4次越谷市総合振興計画後期基本計画」と整合を図りながら、教育委員会内の協議はもとより、政策会議におきまして市長からもご意見をいただきながら調整を進めてまいりました。

私のほうからは以上でございます

○教育委員会 計画の主な内容についてご説明させていただきます。

まず、こちらの「計画素案」につきましては、その前段階で定めた「計画策定基本方針」及び「計画骨子」を踏まえ、8月の計画策定検討部会及び計画策定委員会における協議や9月に教育委員会が所管する各審議会等の委員さんからいただいたご意見を反映した上で、10月の政策会議及び教育委員会会議において最終的なご協議をいただき、決定したものでございます。

それでは、計画素案の主な内容についてご説明いたします。恐れ入りますが、お手元に配付してございます、「第2期越谷市教育振興基本計画素案」をご覧ください。初めに、4ページをお開きください。計画期間一覧表の中段やや下でございますとおり、今回策定する第2期計画は、10年間を見据えて策定した第1期計画に引き続いての、後期5年間の計画という位置づけとしております。また、現在策定中の「第4次越谷市総合振興計画後期基本計画」と、計画期間を同じとしております。

5 ページの、第2章「基本理念・基本目標」でございます。第1期計画に引き続いての後期5年間の計画ということで、基本理念については第1期計画に引き続き「生涯学習社会の実現をめざして」といたしました。越谷市では、子どもたちが確かな学力や豊かな心、健やかな体をバランスよく身につけ、また市民一人ひとりが地域において関わり合い、結び合い、支え合い、さらに誰もが健やかで心豊かな日々を送ることが何よりも重要だと考えております。したがって、いきいきと誰もが生涯にわたり、希望を持って学び続けることができる「生涯学習社会」の実現を目指すことを基本理念としたものでございます。

6 ページになりますが、その基本理念を実現するための3つの視点でございます。誰もが希望を胸に抱き、いきいきと輝きながら生きていくためには、夢を持ち、夢の実現に向かって自己を磨き続けることが必要です。したがって、「夢に向かって粘り強く学ぶ子どもの育成」、「地域で支え合い一人ひとりの夢を応援」、「健やかで心豊かに夢を追い続ける環境づくり」、この3つの視点が確立した社会を「生涯学習社会」と捉え、その実現に取り組めます。

7 ページになりますが、その3つの視点を確立するための基本目標として、学校教育、生涯学習、生涯スポーツのそれぞれの分野における3つの基本目標を掲げました。

学校教育においては、「基本目標1 生きる力を育む学校教育を進める」とし、確かな学力・健康な心と体など、子供たちの生きる力を育むことを目標とします。

生涯学習においては、「基本目標2 生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する」とし、生涯を通じた学びの機会の充実と地域文化の振興を目標といたします。

生涯スポーツにおいては、「基本目標3 生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる」とし、生涯を通じた活動機会の充実と活動を支援する環境づくりを目標とします。

9 ページをお開きください。第3章「今日の教育を取り巻く社会の動向」といたしまして、特に教育に影響を与える社会問題について、国勢調査等のデータを用いながら記述しております。全国的な問題として、「(1)人口減少・超高齢社会」、「(2)環境問題の広域化と次世代への影響」について、10ページになりますが、家庭・地域における問題として、「(3)子育て環境の変化」、「(4)地域社会とのつながりの希薄化」、11ページになりますが、より具体的な課題といたしまして、「(5)ICTの高度化と普及」、「(6)老朽化した公共施設の維持管理」について取り上げました。これらの社会状況を踏まえ、教育行政の推進に取り組んでまいります。

12ページをお開きください。第4章「越谷市の教育の特徴」として、これまで積み重

ねてきた成果とこれからの課題を見直す中で、改めて他市に比べ越谷市の教育が誇れるような特徴は何かということについて考え、アピールしたい取り組み等についてまとめました。

まず、「1 地域を大切にした特徴的な取り組み」として、「(1) 伝統文化を大切にした教育」、「(2) 地域文化の継承と振興」、「(3) 13地区ごとの特色ある生涯学習活動」、「(4) 13地区対抗による市民体育祭」をソフト事業における特徴として挙げました。

また、「2 特徴的な各種教育施設」といたしまして、「(1) 教育センター」、「(2) 越谷市科学技術体験センター」、「(3) こしがや能楽堂」、「(4) 大間野町旧中村家住宅・旧東方村中村家住宅」、「(5) 県内有数の体育施設」を挙げました。これら他に誇れるような越谷市の教育の特徴を守り、さらに長所として伸ばしていくことを念頭に置きながら、それぞれの施策に取り組みます。

続きまして、15ページをごらんください。第5章「取り組みにおける成果と課題～第1期計画の検証～」といたしまして、第2期計画で取り組むべき教育施策を定めるにあたり、第1期計画の成果・進捗・課題を踏まえたものとするため、施策の方向ごとにまとめたものでございます。

16ページになりますが、「基本目標1 生きる力を育む学校教育を進める」、「施策の方向1 自立して生きていくための基礎となる確かな学力を育む」では、「ICT教育の充実」や「特別支援教育の充実」、「環境教育の充実」など、学力を育むための施策に関する成果と課題についてまとめました。

18ページになりますが、「施策の方向2 自立して生きていくための基礎となる健康な心と体を育む」では、「安全教育の充実」や「心の教育の充実」、「食育の推進」など、心と体を育むための施策に関する成果と課題についてまとめました。

20ページになりますが、「施策の方向3 信頼される、質の高い教育環境をつくる」では、「学校施設の環境整備」、「教職員の資質向上」など、学校教育環境を整えるための施策に関する成果と課題についてまとめました。

22ページになりますが、「施策の方向4 保護者・地域との協働を進める」では、「学校応援団に係る取り組み」に関する成果と課題についてまとめました。

23ページになりますが、「基本目標2 生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する」、「施策の方向1 生涯を通じた学習活動を推進する」では、「生涯学習推進体制の充実」や「各種学級・講座の充実」、「科学技術体験の充実」、「図書館の充実」など、生涯学習活動を推進するための施策に関する成果と課題についてまとめました。

26ページになりますが、「施策の方向2 芸術文化活動を推進し、伝統文化を継承する」

では、「芸術文化活動の推進」や「伝統文化の振興」、「文化財の保存・活用」など、芸術文化を推進するための施策に関する成果と課題についてまとめました。

28ページになりますが、「基本目標3 生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる」、「施策の方向1 スポーツ・レクリエーション活動の充実を図る」では、「各種教室等の充実」に関する成果と課題についてまとめました。

29ページになりますが、「施策の方向2 スポーツ・レクリエーション活動を支援する体制の充実を図る」では、「スポーツボランティアの養成」や「スポーツリーダーバンクの充実」など、活動を支援するための施策に関する成果と課題についてまとめました。

30ページになりますが、「施策の方向3 スポーツ・レクリエーション施設の充実を図る」では、「体育施設の改善・充実」に関する成果と課題についてまとめました。

31ページになりますが、「施策の方向4 健康ライフスタイルづくりを支援する」では、「子どもの健康・体力づくり」や「高齢者の健康づくり」、「障がい者の健康づくり」など、全ての方が参加できるような環境をつくるための施策に関する成果と課題についてまとめました。

以上のとおり、第1編において述べました「基本理念・基本目標」、「社会の動向」、「越谷市の教育の特徴」及び「第1期計画の成果及び今後の課題」を全て踏まえた上で、今後5年間において取り組むべき各施策、主な取り組みの内容について、次の「第2編 各論」にまとめました。

34ページ及び35ページをお開きください。第1章「施策の体系」として、施策の体系図を掲載しております。35ページになりますが、「基本目標1 生きる力を育む学校教育を進める」では、学校教育を推進するため、施策の方向1として、確かな学力を育むための施策について、施策の方向2として、健康な心と体を育むための施策について、36ページになりますが、施策の方向3として、質の高い教育環境をつくるための施策について、それぞれ主な取り組みを設定し、取り組んでまいります。

37ページになりますが、「基本目標2 生涯にわたる学びを充実し、地域の文化を創造する」では、生涯学習を推進するため、施策の方向1として、生涯学習活動を推進するための施策について、施策の方向2として、芸術文化活動を推進し、伝統文化を継承するための施策について、それぞれ主な取り組みを設定し、取り組んでまいります。

38ページになりますが、「基本目標3 生涯にわたりスポーツ・レクリエーションに親しめる環境をつくる」では、生涯スポーツを推進するため、施策の方向1として、健康ライフスタイルづくりを支援するための施策について、施策の方向2として、スポーツ・レクリエーション活動を支援するための施策について、施策の方向3として、スポーツ・

レクリエーション施設の充実に関する施策について、それぞれ主な取り組みを設定し、取り組んでまいります。

39ページ以降につきましては、第2章「施策の展開」として、それぞれの主な取り組みについて、今後5年間に取り組む事業などに関する具体的な記述をしております。

以降は、「第3編 まとめ」及び「資料編」という構成となっております。

第2期越谷市教育振興基本計画についての説明は以上でございます。ご協議のほどよろしくお願いいたします。

- 高橋市長 ただいま説明がありました第2期越谷市教育振興基本計画の策定に向け、これまで市と教育委員会でそれぞれ協議を重ねてまいりましたが、第1期に引き続き「生涯学習社会の実現をめざして～いきいきとだれもが夢に向かって輝く越谷教育～」を基本理念としてまいります。この基本理念の実現のため、誰もが希望を胸に抱き、生き生きと輝きながら生きていくためには、夢を持ち、夢の実現に向かって自己を磨き続けることが必要でございます。したがって、第1期と同様に次に掲げる3つの視点、「夢に向かって粘り強く学ぶ子どもの育成」、「地域で支え合い一人ひとりの夢を応援」、「健やかで心豊かに夢を追い続ける環境づくり」が確立した社会を「生涯学習社会」と捉え、その実現に取り組んでまいりたいと考えております。

教育委員の皆様には、基本理念や3つの視点につきまして、ご意見をいただければと思います。教育委員としての皆様のさまざまな立場からの教育に対する思いや日々の活動を通じて、日ごろ感じていることや思っていることなど、皆さんから何かご意見はございませんか。お伺いをしたいと思います。

- 吉田教育長 では、私のほうから。この振興計画で「夢」をキーワードとしているのですけれども、夢というと「はかないもの」とか、あるいは「かなわないもの」といった否定的な感じに捉える方もいるわけですが、夢や希望というのは持ち続けることが大事なのだろうというふうに思っています。持ち続けることによって、実現の可能性が高まれば、やがて夢から目標に変わるのだと。目標になれば、その人の行動の指針になっていくというふうに考えておりますので、そうした、絶えず自己を磨き続けるような、そういう場がやはり確保されているということは大事なことだというふうに思っています。

さらに、その3つの視点が確立した社会を生涯学習社会というふうに捉えているわけですが、一口に教育といっても、学校教育のみならず、さまざまな教育機能が社会にはあるだろうというふうに考えております。学校、家庭、地域、それぞれにあるだろうというふうに思っているわけですが、そうした力を結集して子供の学びを支えてい

くためには、この3つの視点のちょうど、6ページの丸が3つあって真ん中にありますけれども、こういう地域で支え合い一人ひとりの夢を応援するといった、言ってみれば横の連携、今はやりの言葉で言うと、いわゆる共助というような仕組みが必要だろうというふうに思っています。

さらに、そういういろいろな機能を、やはり一つにまとめていかなければ、家庭は家庭、学校は学校、地域は地域でばらばらに考えていたのでは当然できませんので、いわゆる子供をどう育てるかといった縦軸がはっきりしていけないといけないのかなと思っているのですが、これについては左側に、夢に向かってと。夢に向かって何をするのかという、1の下のところの生き方、生きる力を育てて、将来の生き方についての展望を持たせるというふうに書いてありますので、こういう生きる力を育み、夢に向かって、しかも諦めず、粘り強く学んでいくのも、あるいはそういう社会人、こういうのを育成することを一つの軸として考えるということが大事だろうと。ここではやっぱり縦軸と横軸がきちんとしている、そういう社会を確立していくことが大事だろうというふうなことで、私はこの3つの視点、最後の環境づくりと、これはいわゆる公助、したがって地域で支え合いというのが共助、夢に向かって自分で粘り強く学んでいくというのが、これが自助、そしてそういう環境をつくっていくというのが公助ということで、この仕組みがきちんできている社会を構築していかなければいけないなという意味では、この3つの視点というのは非常にわかりやすく、これに沿う形でいろいろな施策を推進していくことが必要だろうと私は考えているところなのですけれども。

○高橋市長 そのほかご意見ありますか。

○住田委員長 ちょっと私のほうから。夢に向かって3つの視点があるわけでありましてけれども、この4月から、越谷も中核市になったわけです。それで私どもは、何のために教育をするのかと。この教育も子供ばかりでなくて、生涯にわたって今出てきておりますけれども、学び続ける、まさに夢を一人ひとりが持ちながらいきいきと生活する。結局私どもはそれを育てるといいますか、支援をしながらやるわけですがけれども、そうしたときに、やはりこれは何かといったら善良な市民を育てるのだと私は考えます。すなわち、これからは越谷市というのは品格もあるといえますか、そういう市になってもらいたいなと私は思っているわけです。そのためには、自助、共助、公助みたいな言葉が出てきましたけれども、一人ひとりもそうなのですから、家庭の問題、それから地域の問題等みんなで考えていかななくてはならないと思っています。そういう点では、この基本目標が何かというのは、大事なのだなと。よくできていると言ってはなんですけれども、よく考えた話ではないかなというふうに考えています。



○高橋市長 荒木さん、初めて教育委員になられてどのように、これから教育を進めていったらいいかということについて、いろいろとまた勉強されてきていると思うのだけれども、率直な、初めて委員となって、どういうふうにかかわっていくか、また教育について夢や希望とか、方針をお持ちなのか、できたらお聞かせいただくといいのですが。

○荒木委員 先ほどから夢という言葉が何回も、重要な言葉としてありますけれども、夢というのは大きいものも小さいものもいろいろあるし、それから、変わっていくこともあると思うのですけれども、一つの夢に向かって努力したことは必ず次の夢に活かされると思うので、夢や目標を持って生きるということが大切だと日ごろ思っております。あと、夢や目標に向かって努力することで、当然苦悩というものも経験するわけですから、そこからまた成長できると思いますし、今、物とか情報とか、そういうものがあふれていて簡単に何でも手に入ってしまう時代だからこそ、夢を持って努力することの大切さというのを子供たちに理解してほしいなと日ごろ思っております。そういったことで貢献できればなと考えております。

○高橋市長 どうですか、進藤先生。

○進藤委員 教育というと、どうしても学校教育に目が行きがちなのですけれども、今回改めてこの基本計画素案を読み直して、今さらながら基本理念である、生涯学習社会ということの意味を考え直しました。ちまたでもよく言われることですがけれども、これから少子化であったり高齢化であったり、かつて経験したことの少ない社会を迎えるので、これまでのやり方をそのまま踏襲するだけではなくて、プラスアルファの工夫をしなければならぬということは避けられないことで、いろいろな意味で難しい問題も出てくるでしょうし、考えたこともないような問題が出てくるのではないかとということも容易に想像できると思います。それゆえ今後向かうべき方向性を今回のように明確にすることは非常に大事ななと感じました。そういった意味では、今回のように基本目標を掲げて、それに向けての3つの視点というように非常にわかりやすい構成にしておくというのは、今後のことを考えるに当たって非常に有益ではないかなと考えました。

自分がかかわっていることで、基本目標と関連することを感想も含めて少し述べさせていただきたいと思うのですけれども、やはり基本理念の実現のためには、行政機関による施策や取り組みだけではなくて、関係機関との連携であるとか、市民との協働というものが非常に大切な鍵を握っているのではないかと考えています。例えば、私は埼玉弁護士会越谷支部というところに所属しているのですけれども、こちらの弁護士会では、かなり前から法律教室というものを越谷市と共同開催しています。これは発足当時から全国でもほぼ例を見ない試みだと言われていています。参加費は無料で、市からは場所の提

供を受けていますが、弁護士会としては報酬をいただいているわけではなくて、もっぱらの無償ボランティアです。開催日時などは、市のご厚意で広報にも掲載していただいております。教室は、弁護士が身近な法律問題について講義を行うものですが、市の市民向けの法律相談から派生して、弁護士会からの持ち込み計画だったので、たまたま手続の流れ上、教育委員会ではなくて、くらし安心課との共同という形をとらせていただいておりますが、内容的には今回掲げられている基本目標2の取り組みの一つとしての意味があると言ってもいいのではないかなと思っています。

教室では、毎回多くの参加者がいて、例えば11月の例をとると、関係者を含めて実に49人の出席者が報告されています。毎回アンケートを実施しているのですが、11月のテーマがたまたま相続ということもあって、アンケートの結果によると、実に60代の方が13名、70代の方が17名出席されています。これ一つを見ても、市民の皆様の学習意欲というのは相当高いものがあるのではないかなと。学習機会の需要は相当あるのではないかなとこのことを感じます。人生は80年どころか、最近90年というふうな感じでもありますけれども、リタイア後も大変長い時間がある、一方ではこのように学びたい、また他方ではそれまで蓄積してきた知識とか技術とかを伝えたいという要望がかなりあるのではないかなということが容易に想像されます。予算のこともございますので、市が主体となって事業をするということには限りがあるのですが、例えばこの法律教室のように、関係機関との共同がうまくいくと、かなり市民の皆様の学習機会の需要にこたえていけるのではないかな。ひいては効率的な基本目標の実現も可能ではないかなというふうに思っています。そのためには、もし可能であれば、市が必要と供給をつなぐ何らかの、こういったコーディネートというか、お手伝いができるようなことができれば非常に有効ではないかなと感じます。以上です。

- 高橋市長 次の基本目標1、2、3についても含めて、この3つの視点とあわせてご意見があったら、いろんな考え方をお聞かせいただければと思うのですが。
- 堀川委員長職務代理者 私も剣道の競技を長く続けております。健やかで心豊かに夢を追い続ける環境づくりという視点でちょっとお話をさせていただければと思いますけれども、越谷市のスポーツ、レクリエーション都市宣言、昭和49年に制定されました。大変すばらしい、この中に含まれております「ひとりひとりが生涯をとおしてスポーツ、レクリエーションに親しみ、健康でたくましい心とからだをつくるとともに、さらに市民の交流を深め、連帯感に支えられた明るく豊かな住みよいまちを築く」という言葉は、本当に先日の市民体育祭の入場行進を見ておりまして、大変多くの団体の方たちが生き生きとした表情で入場行進をされている、非常に圧巻で感動を覚えた次第ですけれど

も、こういったことが長い間越谷には根づいているのだなということを改めて感じております。

私自身、出産後、第2の競技人生といたしますか、そういったものをここ越谷で始めまして、週2回、越谷の総合体育館で、よき仲間にも恵まれまして、お互い高め合いながら活動しております。そういった環境というものは、ここ越谷は非常に充実しておりますし、たくさんの方たちがそういった中でスポーツに親しまれているというふうに感じております。

ただ、一方で、越谷はそういう感じではないのですけれども、日本全国として、近年ちょっとスポーツ実施率が、平成24年ぐらいまでは上昇傾向だったものが、最近3年ぐらいちょっと下降のほうに入っているような、文科省の生涯スポーツ課で出している資料でそういったこともありますので、これからますます支援、推奨ということで力になっていければというふうに考えております。以上です。

〔「音楽のことでちょっといいですか」と言う人あり〕

○高橋市長 はい、どうぞ。

○荒木委員 皆さんご専門のことをおっしゃったので。私も市民のためのコンサートというものにも出演させていただいているのですけれども、やはり同じように毎回たくさんの方がいらして、音楽に対しても市民の方が熱心でいらっしゃるのだなというのを実感しております。コンサートでは、一人ひとりの思いであるとか、人生を重ね合わせて聴いてくださっていると思います。ですからコンサートに来ていただくことで各自の目標というのが明確になったり、自分も頑張ろうと思ったりしていただけているようで、そのような感想を終演後にお声がけいただくこともあります。そういったことで地域に貢献できればうれしいなと考えていつも参加させていただいております。

○住田委員長 それから、やっぱり随分住民といたしますか市民が教育に対して関心があるなというのが、ちょっと逆なことを言いますと恐ろしくなるくらいに、今年の夏に中学校の教科書の採択があったわけですけれども、展示会に、私どもも1度行ったわけですけれども、その後まとめられた感想なり何なりがこちらに配付されまして、随分多くの方が、教員が見られるというのはちょっとわかるのですけれども、一般の方が随分読まれていまして、ああ、やっぱり教育の、特に教科書の問題もあったのですけれども、いろんな、今議論を呼んでいますから、随分やっぱり関心が高いのだなというふうに思いました。

○高橋市長 この基本目標についても、どうぞ。あわせて進めていきたいと思っております。

○吉田教育長 先ほどから、いわゆる市民の学習に対するニーズが割と高いのではないかと

という話が出ているのですけれども、どれだけそれに応えられるかというところが1つのポイントになろうかと思えます。本市では毎年越谷市民大学を開催していますが、これはいわゆる市民のボランティアを実行委員として実施しており、こういった形で、やはりある程度学んだ人たちが、いわゆる人的資源として活用されていくという、そういうシステムをつくっていかないと、なかなか全ての人に学習機会を提供するというのは難しいかなと考えております。したがって身につけたことを活かせる場、これをどういうふうに設定していくのかということもひとつこれから考えていかなければいけないと思っています。今でも指導力を持った方を登録して活用をお願いしているのですが、意外となかなかこれも思ったようには活用されていないという現状もあって、この辺のことをどうクリアしていくかというのが大きな課題になってくるのかなと、思っています。かかわり合い、結び合い、支え合う環境をつくり、横の連携を図る必要があるとはいつても、まだまだ進めていかなければいけないことがたくさんあると考えているところです。また、これはスポーツ面でも、文化面でも言えることですが、いわゆる母体となっている活動団体自体、高齢化してきているということも一つ大きな課題なのかなというふうに考えているところです。

一方では、市民大学のように市民のボランティアで運営するような組織ができつつあると同時に、既存の団体等、組織等が高齢化してきているというふうなこともあって、循環していくような社会を築いていくことが、これからも課題になってくるのかなと考えているところです。

○高橋市長 教育委員会の皆さんには、この教育分野においてとにかく東ねてあるべき方向を常に示していただかなくてはいけないのだけれども、かなりそれにこうしてなかなか市民がイコールで動いていただけないことも多々あるけれども、正しい方向性は常に持っていただかないといけないと思うのです。地方政治を取り組んでいくと、どうしても現象面だけがぼんぼん飛び込んでくる。何かあるとわっとピックアップして議論されて、それが何か一定の方向性というか決着を見るともうぱっと忘れてしまう。これは議会だけではなくて、今の世の中、政治もそうだけれども、社会現象もそうなのですよ。新聞なんか最たるものでしょう。わっと何か持ち上がると各紙が1面に大きく書いたりなんかするけれども、何かいつの間にか忘れられてしまう。

しかし、教育はそういうことがあってはいけない。緻密にやっぱりやっていかなくてはいけないし、これは前にも言ったかもしれないけれども、教育というのは子供のときからのしつけというか、ずっと大人になるまで延長していくわけだから、その辺の重要性というのを感じる。

もっともっと学校の先生方も自信を持って進めていってほしいなど。やっぱり今小学校ではなく、3歳から5歳の幼少のときからの教育が大事だと言われているでしょう。だから、その延長で小学校、中学校、高校と行くわけだから。私ほとにかく子供たちに早く本当に夢を持ってほしい。また、夢を持たせるような親であり学校の先生であってほしいのだけれども、なかなか、私もこんなことを言っているけれども、うちの孫に、今高校2年と中1の孫2人いるのだけれども、いまに何になるのだということを聞くと、「いや、何も」というので、全然まだ考えていないわけ。これがちょっと残念なのだけれども、早く希望を持って、どういう、自分は将来なりたいのかという夢を持ったときには、それを聞けば、それになるにはこういうことを勉強しなくてはいかぬよということを教えたいのだけれども、まだそこまで行かないのが、みずからのところで痛切に感じるのだけれども、そのこのところをやっぱり先生方に早く個性を見出していただいて、あなたはこれやりなよ、すぐれているよと。こういうところをもっと頑張っていけば、みんなからも慕われたり、また自信も持ってやれるよというものをやっぱり見出してほしいのだけれども、学校の先生も1クラス40名、低学年1、2年生、3年生までか、今。30人学級は。2年生までか。

〔「35人です」と言う人あり〕

○高橋市長 35人か。それでだんだんとクラスの数も少なくなっているのだけれども、それでもまだ先生方も個性を見出して、一人ひとりの教育、指導をしていくというのは難しい。やはり最低限の教育、カリキュラムがあるから、これを全部一通り教えなくてはいけないからということに押される面が多々あるのではないかと思うのですが、この方針はすばらしくできていますが、私はやっぱり具体的な1つとして、子供たちの夢、希望を早く見出してほしいという教育を先生方をお願いしたいなというのは常々思っているわけ。スポーツであり芸術文化でもそうですよ。そういうものを早く教えてもらってね。今、学校よりも塾になってしまっているのだよね。スポーツクラブもそうでしょうし、音楽とか芸術なんかもそうでしょう。これは何でだろうというふうな感じなのだけれども、どうしてもそういう専門の塾なんかに行って学ぶような子が多いと思うのだよね。

荒木先生はどうですか。幾つからピアノなんか始めたのですか。

○荒木委員 私は6歳からです。

○高橋市長 やはり専門のピアノ教室だとか、そういうところでもう一途にずっとやられてきた。

○荒木委員 私は、ピアノの道に進みたいと思いながらいろんなことをやっていた子供で

した。鬼ごっこや鉄棒や、縄跳びなどの遊びがすごく好きで友人たちとやっております、習っていたテニスとか、そういうものが今の自分の演奏技術に役立っているという感じですが。いろんなお子さんがいらっしゃるし、ご家庭のご方針もおありだと思いますけれども、市長さんがおっしゃったように、早く夢を持たせるということも、いい点があると思います。私も常に、ピアノにどのようにやっている遊びやスポーツがつながっているのかなんて考えている子供でもありましたので、いろんなところから吸収できると思うので、早くから夢を見出すというのもいい面があると思って伺っておりました。

○高橋市長 本当に堀川先生もあれでしょう、早くから剣道は始めたのでしょうか。

○堀川委員長職務代理者 私は8歳からなのですけれども、地域がそういった環境が非常に整っていたというところもありますし、指導力のある先生に恵まれたということで、やはりどんなスポーツでも芸術でも指導する先生のほうの力というものは非常に大きくて、子供たちにもいろんな力を与えてあげられる指導者を育てるといいますか、つくることがやっぱりこの目標、夢を持ち続ける、希望を持ち続けるといったことに必要なことだと今、市長さんのお話を聞きながら感じた次第です。

○高橋市長 けさの新聞に載っていましたが、越谷の西中がサッカーで県内で優勝したのだね。新聞に載ってました。きのうたまたま聞いたのです。今日埼玉スタで決勝戦をやっていると。どうだったのと言ったら、けさ新聞に大きく載ってましたね。いや、素晴らしいなと思って、即もうその裏には立派な先生がいると。その先生がいるところはどんどん伸びていると、こういうお話も聞いて聞きましたけれども、やっぱり優秀な先生は、行くところ、行くところで子供たちがそういういい成績をおさめるようになっている。やっぱり先生なのだよ。先生が子供たちのいいところをどんどん教えて、伸ばしているのだよね。スポーツ界では特に指導者が、常にいい指導者にはいい生徒がついていくという、そういうものがあるのですけれども、だからそういういい指導者が一人でも多く出てほしいなと。やっぱりその子のいいところをどんどん引き出してくれるということが素晴らしいと私は思っているのです。だからそれで、いわゆる私は一元主義というものを強く求めているのです。オールラウンドの総合職の優秀な先生もまた必要なけれども、本当に一元主義で、何か1つ秀でたものを、特に子供たちを見出してつくってほしいなと、そういう子供たちを。そうすると、子供たちはそれを持って自信を持つのだよね。その自信を持つとほかのところでもすごく影響する。俺はこれができるのだと。みんなよりもすぐれているという、自他ともに認め、思っていると。俺だってできるのだと。ほかのことだってできるのだという、そういう気力が私は湧いてくるというふうに期待しているわけです。だから、そういうものを持ってもらおうし、やれ

ばできるという、昔からよく言われるような話なのだけれども、やっぱりやればできるという、そういう子供をつくってほしいのだよね。

だから、何か1つ、どんなささいなことでも、優勝するとか、トップになるとかということは励みになるのだよね。だから、その励みをどうやって子供に持たせるかということになったときには、ある程度やっぱり競争社会はよろしくないというふうな、どうもイメージが強いだけれども、やっぱり人間生きていける中では、一定の評価は必要だし、その中で自分がどの程度にあるかということのを常に検証することも大事だし、だから学力の一斉テストも私はいいと思っている。だから、それを公表するかどうかの、その使い方についてはいろんな問題がありますよ。あるけれども、やっぱり学力テストなんていうのは、自分の学校の子供たちや越谷市全体のレベルがどの辺にあるかというのは、常に検証する必要がある。教える先生方の意識にもつながっていくし、子供たちにもやっぱりある程度私は大事だと。だから全国で、今度は大学入試や何かのときには、これは黙っていても結果は出てしまうわけだから、だからレベルアップを図るというのも、変に個々の競争をあおることはよろしくないのだよね。全体的なレベルを常にはかりながら、教える側、教わる児童生徒の水準というのは常に把握しながらやっていかないとだめなのではないかなと、こう私は思っているのだから、だから教育委員会の皆さんにもやっぱりそういう視点は常に持ってほしいなと。いろいろ公表するに当たっては、政治絡みのこともあるし、がたがた言ったりなんか取り沙汰されることもあるけれども、ぜひそういうこともお願いしたいなと、こう思います。

- 吉田教育長 夢を持たせるには、取り巻く大人が夢を持って行動して実現しているという、それを見せることが一番だという話があるわけですが、授業なんかも、やっぱり本物を伝えたいと。それは技能教科であれ、社会科であれ、理科であれ、何であれ、いわゆる自分が感動したとか、これは大事なのだという思いをやっぱり伝えていかなければいけないなというふうに思っているのですが、そういう意味での授業づくりとか、あるいは同時に心づくりであるとか規範づくりであるとか、そういうことを通して生きる力を育む越谷教育と銘打って今指導しているところなのですからけれども、そのときにどうしても自分よがりになってしまうところがあるので、やっぱりそういう自分はどの位置にいるのだと、自分の学校は、あるいは自分の市は。そういうところから謙虚に反省して、やっぱりまだ本物に近づいていないなというところから授業を見直していかなくてはいけないということで、この前も小中一貫教育があったところで、全体にお話をさせてもらったのですけれども、子供たちはそのとき合唱を、小学校と中学校と合同で合唱をやっていて、非常に中学生は中学生らしい、いい合唱をしていて、それを見ている

小学生は、よく聞いているわけです。憧れも持っている。中学生も自信を持って発表している。では、授業はどうなのかというと、授業の中でそういう姿が出てくるのが望ましいねという話をさせてもらったのですけれども、そういう形で小中一貫教育を進めていこうというふうに思っているので、必ず検証、自分を甘やかさないで、実際に、では心がどこまで育ったのかと。夢をどこまで持てるようになったのだとか、あるいは授業がどの程度まで子供たちの身になっているのかというようなことを絶えず検証していく手段を持ってくださいということをお願いしているところです。まだまだこれは正直なところ課題があります。これは言い続けていかなければいけないなというふうに思っているのですが、学力テストの話が出たので、ついでに申し上げますけれども、ちなみに県大で優勝したのはサッカーだけではなくて野球も優勝しました。

○高橋市長 どこだっけ。

○吉田教育長 千間台中です。二大タイトルですから、サッカー、野球は。これも団体競技で2つとも優勝するというのは、それは相当なものだと。それなりに努力しているのだと思うのですけれども。学力テストも今年度より国語とか算数、数学、英語に関しては、県のほうは小4から小6、中1から中3までを対象に調査があったのですが、これは経年比較を見るため、1回限りのテストの結果を見るわけではないのですけれども、それにしても本市は全学年全種目とも県平均を上回っているのです。これには相当働きかけもしたのですが、それなりに職員の頑張りのあったのかなというふうに思うのです。いいことばかり言っていると、これまたちょっと。ただ、国のほうは、小6と中3を対象に、これは1学年だけなのですから、国語と算数、数学と理科でそれぞれA問題、B問題というのを出题されて、それを解いたのですが、トータルでは小学校は県や国の平均を上回ったのですが、中学校は数学のA、B問題を除いては県、国の平均を下回っているのです。これは課題があると。したがって、小中一貫では、やっぱりそれは私立に逃げる子もいるので、言いわけはしないようにとは言っているのですけれども、それもあるのですが、やっぱり小から中に、9カ年を見越して、やっぱりうまく育っていないのではないのかと。そこは謙虚に反省して、小中一貫して9年間を見越して教育を進めていこうではないかということで今年からスタートして5年計画なのですが、市内15校を15ブロックに分けて、中学校は15校ありますので、1つの中学校に2つの小学校あるいは3つ、さらには1対1、こういうブロックを15つくって、そこで共同研究をするということで今年から進めたところです。これに全力を傾けて進めていこうというふうに今考えているところです。

○高橋市長 そういう共通テストなり何なりを総合的な捉え方で大いに結構だと思う。だ



から、全体的に下がっていけば、強化を図ると。どうしたらいいかということで、全学校でそういう方策を考えて取り組んでいく。それが大きな目標になるでしょう。あなたのところはいい悪いで、ただ評価して、それで終わってしまっただめなのだよな。

あと、よく昔から子供たちは褒めて育てろというのだけれども、褒める方法、教育的にはどういうふうに行っているか。褒める方法。教育は。

- 吉田教育長 今、小中一貫の主な狙いとして、学力の向上と、それから中1ギャップの解消と、もう一つ自己肯定感の高揚というのを挙げているのですが、例えば自分が役に立っているとか、あるいは積極的に発表ができるとか、自信を持っているとか、そういうところが意外と小学校の低学年から中学校3年にかけて右肩下がりで下がっていくのです。したがって、単にあめ玉上げるように褒めるわけではなくて、やっぱりタイムリーに、努力しているところを見計らって褒めるといったことが必要だと思うのですけれども、やっぱり褒めて認めて、そしてやらせて伸ばしていくという、よく言われることですが、そういうことをやっていこうではないかということで、自己肯定感の高揚についてはそれぞれのブロックで取りかかっているのかなという気はしているのですけれども、気はしているだけで、きちんとしたまだ方向性が出ていないのですが、そこは目指していこうというふうには思っているのですが。
- 高橋市長 子供たちも小学校高学年から中学になると恥ずかしさだとか何かがあるから、いわゆるその裏を言うと、今度は素直さが低下していくわけだよな。だから、よりそういう子供たちを褒めて育てるといっても、褒め方が違ってくるわけだよ。低学年の子供と小学校高学年と中学生では違うからね。だから、尻をたたくだけでもだめだし、ただ頭からちやほやするだけではだめだし、本人の実力内能力をやっぱり認めていくというのが一番大事なのだろうな。
- 吉田教育長 やっぱり一人ひとりをよく見ていくということですかね。私も1回、自分で難しい問題つくってやらせて、60点とった子が成人して、私が飲みに行ったときに隣の席で飲んでいたのですけれども、私の声を聞いて見つけて呼んで、中学生の2年生だか3年生のときにテストをやって60点ぐらいしかとらなかつたのだけれども、頑張ったねと褒めて渡したらいいのですね。私は全部すっかり忘れていたのですけれども。しかし、そのことを覚えているのです。卒業してもう酒を飲むぐらいの年配になっただけでそのことを覚えているというのがあって、やっぱりそれは一人ひとりをよく見て、タイムリーに褒めるということをやることが大事だろうというふうに思っていますけれども、この辺は教員のほうにも焦らずに、自己肯定感が高まるように、それは絶えず検証しながら、ただやたらめったら褒めていたのでは、そういうことはならないと思います

ので、その辺やはり市長さんがおっしゃったように、検証する手段を、厳しく自分を見詰める手段も絶えず持つておくということが大事なので、そのことをあわせ持つて自己肯定感を高めていこうではないかというところで今指導をしているところなのです。

○高橋市長 先生、どうですか。現場で、もう大分過ぎてしまっ。

○学校教育部長 今、小中一貫教育で教育長から話があったように、自己肯定感について、やはりいろいろ褒める場面等については、それぞれ各学校でも取り組んでいるところです。あと授業の仕方等でも、やはり中学校になると若干講義的なものが増えるという反省点もあるので、子供たちの活動を促して、その上で称賛するとかということも一つ方法なのかなと思います。あるいは学級経営の中でも、小学校の場合は、ずっと担任が一日中いるものですから、褒める場面もたくさんあります。係活動とか当番活動についてもこういう機会は非常に多いのですけれども、中学校の場合はそのあたりをもう少し組織立ってやっていかないと、子供たちの頑張りがなかなか見えにくい部分も出てくるのかなということがありますので、そのあたりの小学校と中学校の取り組みについてお互い情報交換をしていただいて、自己肯定感の高揚につなげてもらいたいなというふうに思っております。

また、1つ私、知り合いの方で、小学校のときに図工の作品について「あなた絵うまいね」と言われた方が、子育てが終わって仕事も一段落ついて、ふと時間があるときに何をしようかなと思ったときに日本画を習ったのだと伺いました。その方が生涯学習課のほうに来ておられて、去年入選したので、何か一言メッセージが欲しいということで頼まれたので書いているのですという話を聞いて、小学校のときの教員の一言がその方の後半の人生に大きく影響したのだなということ、私自身も非常にほのぼのとした気持ちになりました。そういった経験を一人でも多くの子供たちにさせてあげたいなということが重要なところでして、そのあたりが小中一貫の中でも生かせればいいなと思っております。

以上でございます。

○高橋市長 先生の立場からすれば先生の立場もいろいろあるでしょうけれども、やっぱり生徒に好かれる先生になってほしいですね。やっぱり生徒、特に中学校なんかは教科ごとだから、かわるからね。やっぱり好かれる先生と、どうしても。子供たちも、さっきも言ったように感情的に、成長期だから、かわるときだから、嫌だと思つとね。私も記憶があるのだよ、中学のとき。やっぱりね、どうしてもちょっと皮肉言われたりなんかすると、それがどうも心に刺さって余り真剣さがなくなってしまうのだな。そういう思いもあるのですよね。だから、今反省しているけれども、ちゃんとやっておけばよかつ

たと思うのだけれども、その当時は嫌いになってしまって、その授業も。そういう先生には先生のほうもいろんなタイプもあるし、一概に教育委員会としても押しつけはできないし、どうやって誘導していくかというのは、これまた難しいのだけれども。子供に好かれる先生になってほしいし、そういう教育委員会としての指導、特に私はいつもいつも思うのは、教育委員会と学校長、学校長と教職員、この3層になっているのだよね。先生方が一辺でしょう、教頭以下、校長は学校の責任者、それを指導していろいろ教育方針や何か教育委員会で決めて、教育長が積極的に周知徹底を図ると。そのときに、校長も45人いるからね。この45人の校長を教育委員会がやはり押しなべて指導するのも、これ大変な話。ましてや今度は学校へ行けば、30人、40人の、もっと多いところは50人ぐらいいるのだろう。その教員を指導していくわけだから、この辺の連携というものが私はなかなか言葉では言い尽くせないさまざまな問題があるというのは、十分理解しているのだけれども、何か現象、事件、事故が起こると一気に吹き出すから、火山が爆発したように地域が大騒ぎになるから、そうならないように日ごろの取り組みが大事で、だからそれをやっぱり校長がしっかりしてもらおうということで、教育委員会は特に校長を中心にいろいろ指導する立場にどうしてもあると思うのですけれども、その辺はどうですか。

- 吉田教育長 まさにおっしゃるとおりで、その辺はアナログで攻めていくしかないなというふうに思っているのですけれども、年3回、全校を私回っているのですけれども、大体、こうやってくださいねと言ったときに、やりましょうと言う校長さんは、大体職員を掌握している。しかし、ちょっと難しいなというふうなときは、職員をうまく掌握し切れていない。要するに自分が言っても職員が動かないというときは、大体私ももう随分経験積みましたから大体わかるのです。そういうときには、ではどうしましょうと。いわゆる校長が言ったことが浸透しやすいような状況をつくり出すために教育委員会として逆にどういうふうなことをしたらいいですかと。例えば、校長さんがじかに職員に言うのではなくて、校長さんの意を体してわかりやすく、指導主事を派遣して、こういうことなのですよ、だからみんなでやっていきましょうねみたいなことを職員に伝えていくと、そういうやり方もありますよねというふうな話をしていたのです。そういうことは積極的に、1人100時間行けと言っているのです。頑張っているのです。やっぱりどうして動けないのか、どうなのかというのは、やっぱり職員のところまでレベルを落として、こちらとしては対策を練っているつもりなのです。その辺をやっているとなかなか現場は思うように動かないということで取り組んでおります。これは時間かかって疲れるのですが、やらざるを得ないというふうに思っております。

○高橋市長 教育長が日夜頑張っているのですが、教育委員の皆さんもぜひ状況をつかんで、教育長と一緒にぜひしっかりと教育現場にも指導に当たっていただきたいなど。

それと、家庭教育ね、家庭教育とか地域と家庭、今やっぱり大きな問題は、やっぱり家庭なのですよね、家庭。この家庭は教育委員会といえどもなかなか立ち入ることの難しさがまた一面であるのですよね。本当に聞いてほしい、守ってほしい家庭が大体学校へ来ないし、我関せずの人が多いわけだ。この層を何とかしようというのだから大変なのです。PTAの役員の子はほとんど大丈夫です。中には一、二、手こずる子供もいるけれども、過去にも見ている、知っているけれども、概してPTAの役員だとか、何かをやっている人は教育にも熱心だし、ちゃんとやってくれるのだけれども、全然学校に来ない、もう子供を学校に預けっ放し、家庭は留守、親子のスキンシップも十分できていないような家庭が多い。これを何とかしようというのは本当に大変で、専門的に指導に入っている先生方も担当もいるわけだけれども、その先生だけに任せるのは大変なのだけれども、学校教育は学校教育だから、家庭教育のほうはなかなか難しい面があるのだけれども、これもしっかりと取り組んでいかななくてはいけないというふうなこともあります。

地域の関係、地域の関係については、私いつもいつも何かあるごとに言うのは、やっぱり地域の指導者が足りない。スポーツ、文化芸術の指導者が足りないと私はこう思っているのだけれども、やっぱり1人の指導者のところに100人も200人も500人も集まりはしないですよ、今。だから、どれだけ指導者を数多くつくってやる、核を幾つもつくっていくことが大事なのではないかと思うのですけれども、社会教育の中ではそういう指導者教育にリーダー教育、リーダー研修だとか、いろんなことをやっているのはわかるのだけれども、ちょっと流されているのではないかな。やっぱり少し毎年工夫しながらリーダー教育をして、そのリーダーが今度は地域に入って、小さなサークルでもいいからつくってやっていくというふうな取り組みをできるようにしてほしいなど。だんだん高齢化しているから、だけれども、高齢者は高齢者なりのよさがあるわけだから、その高齢者層をしっかりと束ねていく。これはあとはボランティアだとか何かにもつながっていくのだけれども、教育あるいは地域のボランティア、そういったものをリードしていく人をいかにつくるかというのを念頭に置いて、地域とのつながりを持っていく。大体子供会に入る団体が年々減ってしまっているわけだから。青年団もとっくになくなってしまっているからね。団長はいるけれども、名前だけの団長だから。私も知っているけれども。やっぱり時代に対応した、そういうものが今はなくなっているのだよね。これは社会のせいだというか、こういう多様化した時代だから難しくなった。難しくなっ

た中でもやっていかななくてはならないのです。一にも二にもやっぱりいろんな団体でのリーダーを養成をしっかりとお願いしたいなど。これは社会教育の分野で、ぜひお願いしたいと思っています。

いろいろ私も皆さんからお話を聞いて、市長と教育委員会が連携を持って、とにかく安心して安全にみんなが元気で生き生きと暮らすことのできる、子供からお年寄りまで、そういう社会をつくっていかなくてはいかぬと。地域をつくっていかなくてはいかぬというのが私の責務でありますので、特に教育分野において、これはやっぱり教育委員会の皆さんに私は期待するところが大きいわけです。いつも言っていますが、教育には、政治的には介入するつもりはありません。教育のほうはちゃんと皆さん方で子供の教育とか社会教育のほうを進めていただきたい。市長部局でやるべき、特に社会教育なんかはもっともっと地域でもやらなくてはいけないし、生涯学習の一環としてやっていかなくてはいけないし、これはともに力を合わせてやっていくということでございますので、これからも相協力してやっていきたいと、このように思っておりますので、ぜひお願いしたいと思います。

皆さんから何か全般的にご意見などあったらお聞かせをいただきたいと思うのですが、何かありますか。

〔「特には。全部お伺いしました」と言う人あり〕

○高橋市長 本当にもっともっと、私は平たんに、こういう計画案というのはすばらしくよくできています。これを一つ一つ見て、どこまでできるのかなというのは率直な話です。この計画に限らず役所がつくる計画というのはよくできていますよ。総論、各論、細則までちゃんと項目的にまで挙がっているから、これがどこまでできるか、また一方では予算も伴うことも多分にありますので、これについては予算には限りがありますので、やらなくてはいけないという認識の上で進めていきますが、すぐにはできない問題、やっぱり一定の時間を順番を追ってやっていかなくてはいけないようなことも多々ありますので、そこはぜひ教育委員会としてもご理解をいただいて、今何から始めるべきかというふうなことをまた整理をしていただいて、予算編成、補正予算のときに、またこれはというものについてはぜひ言っていただきたいと思います。その中で、私のほうからは、全体的な、福祉から環境から産業経済、さまざま分野ありますので、それらもまた踏まえていかなければいけませんので、その都度説明をして、皆さんにご理解をお願いするように進めていきたいと思っておりますので、そこについてはぜひご理解をいただきたいと思っております。皆さんのこの方針については、できる限り進めていきたいと思っておりますので、よろしくお願いしたいと思います。

それでは、まとめになったかどうかわかりませんが、委員長何かありますか。

○住田委員長 私は大丈夫です。

○高橋市長 それでは、いいですか、事務局は。

それでは、今日の総合教育会議、終わりにしたいと思うのですが、事務局から。

○事務局 本日は2回目ということでございまして、第2期越谷市教育振興基本計画の概要につきまして、意見調整を行っていただきました。

今日の内容につきましては、ホームページに掲載して公表させていただきます。

事務局のほうからは以上でございます。

○高橋市長 それでは、以上をもって今日の総合教育会議について終了させていただきます。

今日は本当にありがとうございました。